

## 令和2年度 ゆずり葉こども園事業計画

### 1. 概要

#### ①運営方針

- 本年度2歳児の応募が少なく、4月時点では定員から3名減でスタートすることとなり、その要因として、地域でのゆずり葉こども園との知名度が低いこと、近隣の歴史あるこども園の存在が一因としてあると考えられます。令和2年度には、地域の親や子どもが利用しやすい子育て支援、園庭の開放等を行い、積極的にゆずり葉こども園の認知度を上げる活動を実施します。
- 保育士不足が深刻化する中、保育士確保が難しい状況は変わらない中、職員の退職に伴い非常勤職員が増えますが、引き続き就職フェアや広告掲載で保育士確保に努めます。
- 各年齢の「保育の1日の流れ」を法人内の勉強会で見直しを行い、再度自園のマニュアルを見直します。非常勤職員にも丁寧に伝え、マニュアルに沿った保育を徹底して行います。
- 園舎の老朽化が進み修繕が必要な箇所が増えています。園舎の設備に常時点検を行い、修繕が必要な箇所については計画的に修繕を行い、園児にとって安全な環境づくりを行います。

②定員 111名  
1号認定児 3名 2号認定児 69名 3号認定児 39名

③事業日数 292日（日曜、祝日及び12/29～1/3は休園）

④開園時間 平日・土曜日 7:30～19:00

⑤保育時間 **★2号3号認定児**  
平日 土曜日 早朝保育 7:30～8:30  
通常保育 8:30～16:30  
延長保育 保育短時間児 16:30～19:00  
保育標準時間児 18:30～19:00  
**★1号認定児**  
平日 早朝保育 7:30～9:00 通常保育 9:00～13:30  
預かり保育 13:30～19:00

⑥職員数 園長1名、主幹保育教諭1名、看護師1名、保育教諭19名（うち非常勤8名）  
学校内科医・学校歯科医 各1名（年2回検診実施）  
学校薬剤師1名（年2回検査実施）  
給食委託事業者からの栄養士1名 調理員3名

## 2. 教育・保育運営

### ①教育・保育理念+

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長する事が望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

### ②教育・保育方針

- 社会福祉法人 白鳩会 保育メソッド、一日の教育保育の流れを中心に子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として「生きる力」を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

### ③教育・保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

### ④クラス編成及び職員

0歳児 ひよこ組	6名	保育教諭	2名	乳児フリー1名
1歳児 あひる組	12名	保育教諭	2名	
2歳児 もも組	18名	保育教諭	3名	
3歳児 あか組	18名	(1号認定児0名) 保育教諭	2名	幼児フリー2名
4才児 き組	20名	(1号認定児1名) 保育教諭	2名	
5歳児 あお組	24名	(1号認定児1名) 保育教諭	2名	
合計園児数	98名	(1号認定児2名) 保育教諭	14名	フリー3名
		朝夕延長保育担当教諭	2名	

### ⑤教育・保育内容

- 基本的な生活習慣の構築と「朝の意味ある運動」を1日の保育の流れにカリキュラムとして位置付けます。乳児期から子どもの体幹が不安定なため、壁や机、椅子の背もたれ等で身体を支えないと座位が保てない子どもが多くいるため、体幹を意識した運動の内容を考え、運動能力を高めます。
- 生活習慣や家庭での子育てに問題を抱えている親子が多い為、早寝・早起き・朝ごはんを推奨し、睡眠をとること、朝食をとることの大切さ、社会的なルールである朝の登園時間の重要性等、規則正しい生活が子どもの成長に大きく影響する事を随時保護者に伝え、集団で社会生活を学ぶことの大切さを理解してもらいます。
- ゆるやかな育児担当制・少人数のグループ保育の充実を図り、子ども達が落ち着いて生活できる環境作りに力を入れ、全体的な計画の中から目的を持った保育を行い、評価反省を行い次の計画に繋がります。

●乳児保育は人間形成の最も大切な時期であるため、愛情を持った優しい関わりを心掛けて愛着関係を築き、自己肯定感を育てるために職員指導を行います。

乳児期からの愛着関係を土台とし、コミュニケーション力や自己肯定感を育成し、非認知能力と認知能力を育みます。

●継続して取り組んでいる「朝の意味ある運動」やリトミック等を引き続き丁寧に行い、上手いかなければ基本に戻るということを繰り返し行い、白鳩会の保育メソッド、「保育の1日の流れ」に沿った保育を行います。

●日常動作の不器用な子どもが多く、何でも片手で雑に行う子もいるため、日常の保育の中で常に両手を使う事を意識させ、食事の際には食器に手を添えて食べる等、両手や指先を使い、そのことを子どもに定着させるように努めます。

#### ⑥家庭との連携

●日誌やおたよりはドキュメンテーションで発信し、子どもの成長を分かりやすく「見える化」して保護者に伝えます。

●入園説明会、クラス懇談会（年2回）、個人懇談会（年1回）などの場で教育・保育理念、目標、方針について、保護者に向けて丁寧に説明します。

●クラス懇談会や個人懇談会、保育参観を行い、具体的な教育・保育の取り組みについて知らせ、保護者との信頼関係を深めます。

●早寝、早起き朝ごはんの大切さをおたよりやクラス懇談会を通して保護者に伝え、保護者と共に子どもの生活リズムの改善に取り組みます。

●配慮の必要な家庭については、ケース会議を持ち、それぞれの発達や配慮の状態を把握しています。保健センターと密に連携を取り、職員間で情報の共有をします。

●転園後の園児と保護者や卒園児とその保護者への支援を継続して行い、転園、卒園後の子どもと保護者を見守るための相談窓口を開きます。園長、主幹保育教諭が窓口となり、相談相手を選び、いつでも相談できる環境を整えます。

#### ⑦人材育成

●法人の理念に沿った園外研修に積極的に参加し、自らの保育技術や保育の質を向上に努めます。

●法人内勉強会を通して、気付いた事や自分の思い、考えを発言することが出来るように職員間で意見を交わし、対話する機会を多く持ちます。

●ドキュメンテーションでは、子どもの成長を家族に理解してもらうために、全体的な計画とのつながりが出来ているかの見直しを行います。

#### ⑧苦情処理

●第三者委員2名の設置を行い、苦情解決の責任者を園長、苦情受付担当者を主幹保育教諭として苦情解決に努めます。苦情解決システムについては、園のガイドブックや入園説明会、クラス懇談会などで保護者に周知します。

- 「ご意見箱」を設置し、保護者からの意見や要望を集約します。意見・要望については、概ね24時間以内に回答書を貼り出します。24時間以内に回答出来ない案件についてはその旨を貼り出します。
- 保護者からの苦情や意見は真摯に受け止め「問題解決用紙」にまとめ、迅速な対応を行うと共に全職員で共有します。

#### ⑨リスクマネジメント

- 災害発生時には迅速にモバイル配信システムを使い、保護者に連絡をします。
- 一昨年の地震や台風などの災害の経験から、備蓄品を揃えています。備蓄品リストをもとに点検と確認を行い、職員間で共通認識します。
- 看護師が中心になり感染症や嘔吐処理の方法、S I D S対応、心肺蘇生法（A E Dの使い方）などの研修を行います。同時に消防署、日本赤十字社等の研修にも参加します。
- アレルギー事故に関する研修（マニュアルの読み合わせ、エピペンの使用方法）を実施し、全職員で共通理解を図ります。
- 消防署と連携し、総合災害訓練（年1回）を行います。近隣の小学校が一時避難先となるため、年1回合同での避難訓練を行います。
- 昨年の爆破事件騒動の際、近隣の大型スーパーに協力を得て、園児と職員の避難場として使用させてもらい、身の安全の確保をすることができました。今後も近隣の方との関係を深め、訓練を行います。

#### ⑩その他

- 公立保育所の引き継ぎの園舎であるため各部屋の老朽化が目立ちます。安全を一番に考慮して、必要に応じて修繕工事を行います。